【土木計画学研究・講演集 No.17 1995年1月】

栃木県日光付近地域における地域資源を活用した地域振興策について ＊

Regional deveropment by using local resaurses nereby Nikko in Tochigi Prefecture

福 田 正 男 ＊＊

By Masao Fukuda

1 振興策の策定の目的及び検討内容

(1) 振興策策定の目的

鹿沼市、日光市、今市市は、首都東京から90～130 km圏、県都宇都宮市から5 ～50km圏に位置し、地域内には国際観光地や農業生産地域を含み、日光東照宮や杉並木街道に代表される歴史的資源や温泉資源等の地域資源が豊富であることに加え、交通基盤が整備され、東京圏とのアクセスに便利な、今後より発展する可能性のある多様な機能の集積が可能な魅力ある地域である。

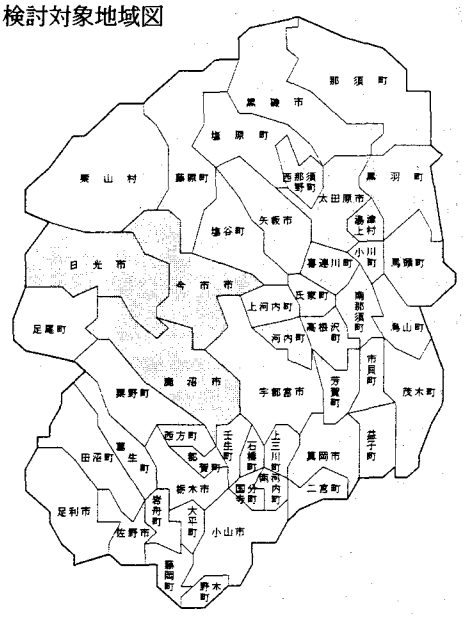
数々の地域資源に恵まれていることから、地域の特性を活かした個性豊かな地域づくりを推進するため、地域資源を活用した地域振興を図ることが望まれている。

地域資源の利活用を通じて、この地域として相応しい特化すべき機能の集積を図るための指針の策定を目的としている。

(2) 振興策の検討内容

地域の現況・特性の把握
→ 地域に求められている機能の抽出
→ 特色ある地域作りのための資源活用と機能の選定
→ 整備の基本理念の設定と指針の策定

○ 検討対象地域図



2 検討結果

(1) 地域の現況・特性

(a) 地域の現況

3市の面積が877 km²（県土面積の13.7%）。東京から90～130 km、宇都宮市から5 ～50kmの距離にある。

東北自動車道と日光宇都宮道路の高速道路、JR日光線と東武鉄道日光線等の交通基盤が整備され、東京とは90分の時間距離にある。

地域の総人口は166,179 人（県人口の8.7 %）、農業粗生産額は県の8 %、製造品出荷額は7 %を占めている。国際観光リゾート地域を後背地としている。

鹿沼市は流通センターと工業団地、日光市は国際観光都市、今市市は宇都宮市のベッドタウン化の性格を持つ。

＊ キーワード 地域計画、プロジェクト構想

＊＊ 栃木県企画部地域振興課 副主幹

(〒 210 栃木県宇都宮市塙田1丁目1番地20号)

(b) 地域の特性

①宇都宮テクノポリス地域と日光の国際観光リゾート地域に挟まれた位置から、住宅地、ゴルフ場等のレクリエーション地域、野菜・花卉等の首都圏農業地域、先端的な工業と物流の立地など、産業・居住・余暇の各機能が発展の余地を秘めながら共存している地域である。

②高速道路と鉄道をあわせ持ち、東京、宇都宮との近接性が高く、住宅・工業・レクリエーション等の各面で有利な交通特性、立地条件を持つ地域である。

③日光市の二社一寺、今市市の日光街道杉並木、鹿沼市の建具など歴史資源と地場産業を持つ。

林業を背景として家具・木製品等の地場産業が盛んであり、日光連山を背景とした田園風景は3市共通の特色ある風土景観である。

(2) 地域に求められている地域整備機能

(a) 社会経済の変化からの地域に対するニーズ

経済の低迷の中で新しい産業分野についての模索が始まっている。対象地域は余暇関連産業だけでなく、環境関連、医療福祉や住宅・住環境関連など、将来性のある産業分野の導入・育成を図ることが可能な地域である。

生活面ではゆとりのある生活を楽しみ、自然や地域との多様な交流を深めようという、生活者重視への考え方が定着してきている。自然が豊かで利便性が高い本地域は、新しいライフスタイルの舞台としての適性を備えている。

(b) 首都圏住民の地域に対するニーズ

首都圏住民を対象に、地域の将来像、集積すべき機能などの設問でアンケート調査を実施した。

実施時期は平成6 年1 月、調査対象は地域出身の在住者・他地域在住者・東京区部在住者で、アンケート票の郵送配付・回収の方法によった。

地域住民からは、自然とのふれあい、伝統産業の振興と伝統文化の余暇活用、温泉活用の健康増進、医療・福祉・高次な教育・研究など生活環境の質の高さ、地域文化をもとにした地域間交流等への希望意向が強く出た。

東京の住民からは自然や田舎とのふれあい、地方的な食文化、温泉での保養に対するニーズが強い。

自然・田舎・温泉など生活の豊かさを求める点で、地域に期待するものには双方で共通項が多い。

(c) 地域に求められる機能のまとめ

対象地域は立地特性から産業、住宅、余暇の機能が存在しており、地域の発展とともに、それぞれが高度化、多様化していくことが求められている。

高速道路と鉄道を持ち東京圏とのアクセスが容易な交通利便性を活かして、生活と余暇・産業の両面で他地域との「交流」を重視する地域づくりが特に課題となる。観光・レクリエーションだけでなく、工業や農業分野で研究開発・研修や教育など高度な機能を導入し、産業を通じた地域間交流の活性化を図る必要がある。

恵まれた自然環境と風土や歴史に根ざした地場産業を地域独自の個性と魅力をつくるために活かしながら、自然の豊かさの中で質の高い生活環境、産業環境を形成することが対象地域に求められている。

(3) 特色ある地域作りのための資源活用と機能の選定

(a) 地域資源の整理

「花」：さつき園芸、流通センター、花卉など
「水」：豊富な水、渓谷や滝、釣りなど
「樹」：杉並木、木工・家具製造、緑の田園風景
「匠」：日光彫り、漆工芸、建具などの伝統工芸
「食」：日光ゆば、そば、コンニャク、茶など
「湯」：温泉資源
「祭」：さつき祭、二社一寺の祭礼など

(b) 地域資源の利活用の方向

産業機能の高度化の面については、医療・福祉関連産業、生活関連サービス業を育成する方向で活用する。

住宅・生活環境の質の向上の面では、「花・水・樹」のアメニティ豊かで自然に囲まれた生活環境を形成する。

研究面では、生活文化、環境・農業系の高度な研究開発・研修に資源を活用していく。

レクリエーション面では、歴史文化と自然の地域

環境の中でゆとりや潤いが感じられ、健康増進に役立つ余暇活動に資源を利用する。

(c) 将来の地域特性の検討と機能の選定

対象地域が個性ある複合型都市として整備されていくために、特に本地域の個性である生活文化、歴史文化、自然という三つのテーマについて、それらをより強く打出していくための機能を選定する。

生活文化：特に住宅関連産業についてその流通機能を強化する。

歴史文化：伝統地場産業振興機能に加え、地域内外交流機能を強化する。

自然－Ⅰ：アメニティ高度化機能を強化し、全ての施設が人々の憩いの場となり、地域全体の良好な環境作りに資するようにする。

自然－Ⅱ：地場産業振興機能を強化し、地域の自然食品のＰＲを行って人々の自然・健康への意識を高め、自然の良さを実感できる施設を併せて整備していく。

自然との調和の中でゆとりと個性を表現していく地域整備を行っていく。

(4) 地域整備の基本理念の設定と指針の策定

(a) 基本理念の設定

「花」の豊かな生活文化、「水」の清浄で潤いのある環境、「樹」に包まれた自然の中のゆとりのある生活活動と産業活動、「匠」のぬくもりと味わい品格と風土の感じられる「食」の楽しみ、「湯」の健康さと快適さ、「祭」の賑わいを地域内外の人の交流に役立つ地域の個性として表現する。

これらの地域資源を活用する基本理念を次のように設定した。

前日光〈華〉のふるさと交流圏構想

「華」は水準の高い生産活動と生活文化、交流によってもたらされる地域文化の昇華等を表している。

日光の華やかなイメージと連続するように地域名称として「前日光」を冠した。地域の人達の心のふるさと、東京圏の人達の第二のふるさととして本地域を育成し、東京圏や宇都宮圏との交流による新しい華やかな地域文化が形成されるよう整備を進めることとする。

(b) 地域整備のための指針と方策の策定

① 地域資源利活用の展開方向をもとに、地域整備のための指針を検討すると次のように纏められる。

●自然と風景の保護・保全
●伝統産業・地場産業の振興と地域文化の育成
●高度な産業機能の育成と導入
●高度な生活基盤の形成
●地域間交流のための中核的施設の形成
●産業施設の中での交流機能の導入

② 地域整備方策

●交流のための「中核的施設」の形成
●中核的施設を中心としたモデル整備地区の形成
●各モデル整備地区、各施設への交流機能の導入

(5) モデル整備地区の設定と整備

基本理念に沿った地域振興を効果的に進めるために４つのモデル整備地区を設定し、その整備を推進していく。

① 鹿沼市東南部地区：「花・匠・樹」の交流拠点

東北自動車道鹿沼ＩＣの一帯は、全国レベルの交流機能を持っている花木センター、「樹」を活かした住宅産業関連の建具・インテリア家具製造の木工団地、工業団地、流通センターが整備されている。

花木センターを核として既存のレクリエーション機能のほか「花」関係の技術支援機能、バイオ研究機能の集積を進める。また、広い平地林を確保して野鳥が観察できる森を創造するとともに、この自然の中で住宅関連産業について総合的テーマパークを構想する。

② 鹿沼市北西部地区：「水・樹・食」の交流拠点

本地区は、市街地から比較的至近距離にある中山間地域で豊富な森林資源に恵まれている。

そば、しいたけ、コンニャク、茶、朝鮮人参などの健康食品の産地である。ここでは、自然のテーマを重点的に強調していくこととし、自然との多様な交流機能を強化して交流拠点を形成する。

③ 今市市杉並木周辺地区：「樹・水・花・食」の交流拠点

日光宇都宮道路の今市ＩＣと東武鉄道日光線の特

急停車駅を備えており、りんどう、シクラメンの生産が本県で一番盛んな地域である。世界一長い並木として有名な杉並木は地域全体のシンボル的存在であり、また、杉線香の地場産業がある。

ここでは主に自然というテーマを強調することとし、交通利便性を活かし新しい産業機能の導入を図りながら、交流拠点を形成する。

具体化が進んでいる県立県西大規模公園を中心施設として、豊富な大谷川の表流水や伏流水を活かして「水」と遊べるアメニティ施設と花卉関係の栽培技術や研究機能を持つ交流施設として、交流プラザの整備を進める。緑豊かな憩いの場を持った新しい設計スタイルを持つ研究所やハイテク産業の誘導立地を進め、特に「自然」というテーマを強化するため環境関連企業の誘致を進める。

また、杉並木公園祭りと圏域内祭りのネットワーク化を図るとともに、「食」の楽しみと地域の食文化の紹介を行う飲食施設の整備を進める。

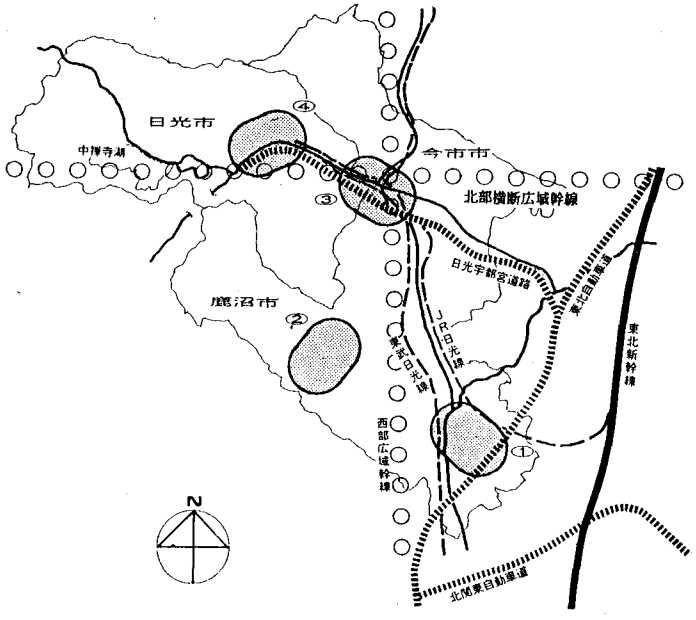
④　日光市街地北部及び清滝地区:「匠・湯」の交流拠点

日光中心市街地周辺部にあたり、東武鉄道日光線、ＪＲ日光線の始発駅として交通の便がよく、日光霧降アイスアリーナに隣接して「日光木彫りの里工芸センター」が整備されている。ここでは特に歴史文化というテーマを強調していくこととし、東照宮由来の「匠」と新しい温泉施設を活用し、「匠」と「湯」の交流拠点を住環境の整備と一体的に形成する。

レクリエーション機能を持った地場産業後継者育成施設の拡充を検討していく。さらに、地域住民の利用と日光を訪れる人にも開放した温泉センターを整備し、地域の医療・福祉に役立て、この施設を核として地域と他の地域の人たちのふれあう交流機能を持つ施設の整備を進める。住環境の整備をあわせて実施することにし、住んで良く、訪れて良い地域を目指していく。

これらのモデル整備地区を中心として「花・水・樹・匠・食・湯・」の「祭」を展開し、四季を通じて他地域との多様な交流を推進していく。

(6)　整備実現の課題

・住民参加による「前日光〈華〉のふるさと交流圏構想」の実現に向けた取り組みが必要である。
・三市及び他圏域との連携強化の整備が必要である
・実現のため行政と民間との適切な機能分担の下、民間活力を積極的に活用して実現に資することが必要である。

○　モデル整備地区図